

# みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

## Bulletin of the National Museum of Ethnology Vol. 17No. 1; Cover, Contents, and others

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10502/00009201">http://hdl.handle.net/10502/00009201</a>

1992 — 17.1 卷 1 号

# 国立民族学博物館 研究報告

● 「劇場国家」から「旅行者の楽園」へ

—— 20世紀バリにおける「芸術-文化システム」としての観光 —— 山下晋司

採取民コエグの歌とダンス

—— エチオピア西南部、オモ川下流平原の民族間関係 —— 松田 凡

コエグの人と魚

—— 環境認識の習得 —— 稗田 乃

The Surviving Whale-Tooth:

Cultural Significances of Whale Products in Oceania —— Tomoya Akimichi

La Danza de la Degollación del Inca —— Luis Millones y Hiroyasu Tomoeda



国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL. 06-876-2151

# 国立民族学博物館研究報告

17 卷 1 号

1992 年

## 目 次

「劇場国家」から「旅行者の楽園」へ ——20世紀バリにおける「芸術-文化システム」としての観光——	山下晋司	1
採取民コエグの歌とダンス ——エチオピア西南部, オモ川下流平原の民族間関係——	松田 凡	35
コエグの人と魚 ——環境認識の習得——	稗田 乃	97
The Surviving Whale-Tooth: Cultural Significances of Whale Products in Oceania	Tomoya Akimichi	121
La Danza de la Degollación del Inca	Luis Millones y Hiroyasu Tomoeda	143
彙 報		161
国立民族学博物館研究報告寄稿要項		165
国立民族学博物館研究報告執筆要領		166

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

---

Vol. 17 No. 1

1992

---

YAMASHITA, Shinji	From "Theatre State" to "Tourist Paradise": An Analysis of Tourism as the Art-Culture System in Twentieth-Century Bali .....	1
MATSUDA, Hiroshi	The Dance Among the Koegu of Ethiopia: Identity and Interethnic Relations of the Forager .....	35
HIEDA, Osamu	Koegu People and Fish: Environmental Cognition and Acquisition .....	97
AKIMICHI, Tomoya	The Surviving Whale-Tooth: Cultural Significances of Whale Products in Oceania .....	121
MILLONES, Luis	La Danza de la Degollación del Inca .....	143
TOMOEDA, Hiroyasu		

彙 報

(平成4年1月～  
平成4年3月)

人事異動

(教育職)

(退職)

3月31日 第3研究部教授 杉本 尚次  
(任期満了)

3月31日 九州大学・第三研究部助教授  
小林 茂  
ハーバード大学・第五研究部助  
教授 LIFSON, Thomas  
名古屋大学・第五研究部教授  
立川 武藏

(死亡)

12月23日 北海道大学・第一研究部助教授  
黒田信一郎

シンポジウム

◎文明学部門第10回国際シンポジウム「近代  
世界における日本文明—技術の比較文明学  
—」

日時 平成4年3月16日(月)～23日(月)

場所 国立民族学博物館

摘要 今回のシンポジウムは、日本文明に  
おける技術の特色を、政治・経済な  
ど社会組織とのかかわりおよび諸外  
国との比較であきらかにし、今後の  
日本技術のゆくえを展望しようとす  
るものである。

組織委員会

(委員長)

梅棹 忠夫 国立民族学博物館長

(委員)

佐々木高明 国立民族学博物館副館長

竹村 卓二 国立民族学博物館第一研究  
部長

石毛 直道 国立民族学博物館第二研究  
部長

杉本 尚次 国立民族学博物館第三研究  
部長

友枝 啓泰 国立民族学博物館第四研究  
部長

藤井 知昭 国立民族学博物館第五研究  
部長

田中 武雄 国立民族学博物館管理部長  
(専門委員)

ヨーゼフ・クライナー

ドイツ日本研究所所長

ハルミ・ベフ

スタンフォード大学教授

実行委員会

(委員長)

杉田 繁治 国立民族学博物館第五研究  
部教授

(委員)

石森 秀三 国立民族学博物館第四研究  
部助教授

須藤 健一 国立民族学博物館第四研究  
部助教授

柄木田明子 国立民族学博物館第三研究  
部助手

山本 泰則 国立民族学博物館第五研究  
部助手

岩本 義男 国立民族学博物館研究協力  
課長

湯浅 叡子 財団法人千里文化財団専務  
理事

宇治日出二郎

財団法人千里文化財団事業  
部長

参加者

James R. Bartholomew

オハイオ州立大学教授

Harumi Befu スタンフォード大学教授

Philip C. Brown

オハイオ州立大学助教授

Roger Greatrex

ルント大学助教授

Robert Horres

ボン大学博士課程

Josef Kreiner ドイツ日本研究所所長

梅棹 忠夫 国立民族学博物館長

種田 明 流通科学大学助教授

草光 俊雄 日本女子大学助教授

- 杉田 繁治 国立民族学博物館教授  
高松 亨 大阪市立大学大学院博士課程  
中島 秀人 東京大学先端科学技術研究センター助手  
森田 恒之 国立民族学博物館教授
- 日程
- 3月16日(月)(千里阪急ホテル)  
17:00 登録
- 3月17日(火)(国立民族学博物館)  
13:00 開会式(司会:杉田 繁治)  
13:10 参加者紹介  
13:40 基調講演  
梅棹 忠夫(代読:杉田 繁治)
- 第1セッション  
(座長:ヨーゼフ・クライナー)  
15:00 技術のカテゴリー化と日本科学技術の位相 中島 秀人  
16:00 討 論
- 3月18日(水)(国立民族学博物館)  
第2セッション  
(座長:中島 秀人)  
10:00 現代技術研究のパラダイム—社会・技術システムの多次元性と多義性について— Robert Horres  
11:00 討 論
- 第3セッション  
(座長:高松 亨)  
13:00 Science and Technology as Cognitive Domains in Japan: A Comparative Perspective  
James R. Bartholomew  
14:00 討 論
- 第4セッション  
(座長:Roger Greatrex)  
15:30 技術と社会制度—文明と、技術の社会性・文化性について  
種田 明  
16:30 討 論
- 3月19日(木)(国立民族学博物館)  
第5セッション  
(座長:種田 明)  
10:00 技術交流の失敗—近世日本の検地技術— Philip Brown  
11:00 討 論
- 第6セッション  
(座長:草光 俊雄)  
13:00 蒸気船製造技術の日本及び中国への導入の比較 Roger Greatrex  
14:00 討 論
- 3月21日(土)(国立民族学博物館)  
第7セッション  
(座長:Philip Brown)  
10:00 近代日本の機械文明との接合様式  
高松 亨  
11:00 討 論
- 第8セッション  
(座長:Robert Horres)  
13:00 生産技術のセットとユニット  
森田 恒之  
14:00 討 論
- 第9セッション  
(座長:James R. Bartholomew)  
15:30 産業革命と技術文明 草光 俊雄  
16:30 討 論
- 3月22日(日)(国立民族学博物館)  
第10セッション  
(座長:ハルミ・ベフ)  
10:00 現代技術社会の諸断面  
杉田 繁治  
11:00 討 論
- 総合討 論  
(座長:杉田 繁治)  
13:30 討 論  
15:30 討 論  
17:00 閉会式
- 3月23日(月)(千里阪急ホテル)  
9:30 ワークショップ

彙 報

海外における研究・調査・収集活動

氏名	官職	出発	帰国	行先
片倉 素子	教授 (第二研究部)	4. 1. 3	4. 3. 5	モロッコ, エジプト, サウジアラビア, アラブ首長国連邦
藤井 知昭	教授 (第五研究部)	4. 1. 4	4. 1.12	タイ, ラオス
庄司 博史	助教授 (第三研究部)	4. 2. 2	4. 2.16	エストニア
吉本 忍	助教授 (第五研究部)	4. 2.14	4. 3.25	カナダ, アメリカ合衆国
塚田 誠之	助手 (第二研究部)	4. 2.15	4. 3.15	中国
杉本 尚次	教授 (第三研究部)	4. 2.28	4. 3. 5	台湾
藤井 知昭	教授 (第五研究部)	4. 3. 8	4. 3.14	中国
佐藤 浩司	助手 (第四研究部)	4. 3.11	4. 3.24	マレーシア
佐々木高明	教授 (第二研究部)	4. 3.13	4. 3.18	大韓民国

来館者抄

- 1月17日 クラディウス・ミュラー (ドイツ連邦共和国, ベルリン世界民族博物館東洋部長)
- 1月30日 J.I. キム (韓国, IBM韓国 EX-PO'93 チーム代表)
- 2月5日 李 昆 声 (中国, 雲南博物館館長)  
李 芸 (中国, 同館副館長)
- 2月13日 陳 湘 雲 (中国, 上海音像資料館副館長)
- 2月17日 劉 耀 荃 (中国, 広東省民族研究所所長)  
嚴 汝 嫻 (中国, 中国社会科学院民族研究所)
- 2月20日 平成3年度美術館等運営研究協議会一行 総勢50名
- 3月1日 Penh YETH (カンボジア, 情報文化省副大臣・プノンベン芸術大学長)  
Soeung KONG (カンボジア, 情報文化省副官房長官)  
Oung VONG (カンボジア, アンコール遺跡管理事務所長)
- 3月2日 ビエール・ノエル (フランス, 国立視聴覚研究所チーフ研究者)
- 3月7日 中国上海市文学芸術界連合会代表団一行

- 劉 泉 (中国, 上海市文学芸術界連合会責任者・上海電影家協会常務副主席)
- 鄭 国 義 (中国, 『文学報』総編集長)
- 李 慶 福 (中国, 上海文学芸術院副院長・上海曲芸家協会常務副主席)
- 漆 啓 泰 (中国, 中国電視芸術家協会上海分会副秘書長)
- 高 勝 利 (中国, 上海敦煌国際文化芸術公司総経理)
- 3月8日 鄭 桂 玉 (韓国, 文化財研究所学芸研究士)
- 任 鶴 鐘 (韓国, 国立晋州博物館学芸研究士)
- 3月10日 ダグラス・イブリン (アメリカ合衆国, スミソニアン歴史博物館副館長)
- 3月13日 S. P. ムッカジー (インド, 考古局)  
K. P. プナーチャ (インド, 考古局)
- 3月16日 日本ユネスコ国内委員会招聘者一行  
ANDERSON, Ian (オーストラリア, オーストラリア・ユネスコ国内委員会事業活動調整官, 科学事業担当)

**MAJDUDDIN, A.** (イラン, イラン・ユネスコ国内委員会研究助手)

**BABARAN, Enrique B.** (フィリピン, フィリピン・ユネスコ国内委員会開発管理官)

**PHOORIPHOKHAI, Yuwadee** (タイ, タイ・ユネスコ国内委員会対外関係部対外関係官)

**GOKALP, Nur** (トルコ, トルコ・ユネスコ国内委員会青年小委員会委員長・女性小委員会委員・Hacettepe 大学アメリカ文化文学部助教授)

3月21日 朴 延 燁 (韓国, 韓国国際交流財団常任理事) 夫妻

3月27日 朱 徳 生 (中国, 北京大学哲学部長)

3月30日 **GNOLI, Gherardo** (イタリア, イタリア中亜極東協会会長)

**STERLING, Peter V.** (アメリカ合衆国, インディアナポリス子供博物館館長)

**VANAUSDALL, John** (アメリカ合衆国, 同館展示責任者)

**KULCZAK, Theresa** (アメリカ合衆国, 日米インディアナ協会専務理事)

3月31日 中国上海同済大学図書館長一行  
曲 則 生 (中国, 同済大学図書館長, 同済大学日本学研究所研究員)

黄 弘 明 (中国, 同済大学日本学研究所長 教授)

徐 兆 和 (中国, 同済大学図書館副館長 館員)

陸 栄 用 (中国, 同済大学図書館情報研究課長 副研究員)

劉 丹 心 (中国, 同済大学図書館雑誌整理課長 副研究員)

聶 玉 美 (中国, 同済大学図書館コンピュータ情報処理課長 館員)

袁 麗 莉 (中国, 同済大学日本学研究所 助理研究員)



## 国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
  - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
  - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
  - (3) その他本館において適当と認められた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当たっては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1

国立民族学博物館内

国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表06-876-2151）

## 国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り、図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

[柳田 1942: 67-69]  
[Leach 1961: 123]  
[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]

ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。

[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]
9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。
  - (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
  - (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。

欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本語の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13 (4): 311-330.

Bohannon, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14 (4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143。

Leach, Edmund

1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse. In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language, The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

1966 『文明をもった生物』日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

1974 『シャーマニズム——古代のエクスタシー技術——』堀一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 17卷 1号

〔監 修〕

梅 棹 忠 夫

〔編集委員長〕

友 枝 啓 泰

〔編 集 委 員〕

石 森 秀 三

江 口 一 久

大 塚 和 夫

崎 山 理

重 松 真 由 美

清 水 昭 俊

杉 島 敬 志

須 藤 健 一

田 邊 繁 治

田 村 克 己

長 野 泰 彦

福 井 勝 義

松 原 正 毅

宮 本 勝

---

平成 4 年 7 月 31 日 発 行 非 売 品

国立民族学博物館研究報告 17卷 1号

編集・発行 国立民族学博物館  
〒565 吹田市千里万博公園 10-1  
TEL 06 (876) 2151(代表)

印 刷 中西印刷株式会社  
〒602 京都市上京区下立売通小川東入  
TEL 075 (441) 3155(代表)

---

Bulletin of the National Museum of Ethnology  
vol.17 no.1  
1992

- YAMASHITA, Shinji**      **From "Theatre State" to "Tourist Paradise": An Analysis of Tourism as the Art-Culture System in Twentieth-Century Bali**
- MATSUDA, Hiroshi**      **The Dance Among the Koegu of Ethiopia: Identity and Interethnic Relations of the Forager**
- HIEDA, Osamu**      **Koegu People and Fish: Environmental Cognition and Acquisition**
- AKIMICHI, Tomoya**      **The Surviving Whale-Tooth: Cultural Significances of Whale Products in Oceania**
- MILLONES, Luis**      **La Danza de la Degollación del Inca**  
**TOMOEDA, Hiroyasu**



**National Museum  
of Ethnology**

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan  
phone 06-876-2151

ISSN 0385-180X